

アントレプレナーシップ教育 ガイドブック



板橋区教育委員会
平成 30 年 3 月

アントレプレナーシップ教育とは？

起業家精神（チャレンジ精神、創造性、探究心 等）と起業家的資質・能力（情報収集・分析力、判断力、実行力、リーダーシップ、コミュニケーション力 等）を有する人材を育成する教育です。

起業家や企業経営者だけに必要な特殊なものではありません。高い志や意欲をもつ自立した人間として、他者と協働しながら新しい価値を創造する力など、これからの時代を生きていく力の育成のために、起業家精神と起業家的資質・能力の育成をする教育です。

キャリア教育とアントレプレナーシップ教育との関係について

キャリア教育とは、「一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通してキャリア発達を促す教育」です。

板橋区では、キャリア教育の目標を、「自己の個性を理解し、将来、社会人・職業人として自立していくために必要な意欲・態度や能力を身に付けること」としています。アントレプレナーシップ教育で育成が期待できる能力は、「キャリア教育」によって育成する「人間関係形成・社会形成能力」、「自己理解・自己管理能力」、「課題対応能力」、「キャリアプランニング能力」に符合する内容が多くあります。



アントレプレナーシップ教育を日々の学習に位置付けるためには？

現在ある単元を工夫して取り組みたい

アントレプレナーシップ教育を充実させたい

現在の各教科等の単元を**変更せずに**、アントレプレナーシップ教育の視点を取り入れた学習内容を充実させる。

- 起業家・経営者など外部講師を招いての講演
- 創業経営者が経営する企業・商店の訪問や職場体験学習
- 職業調べ・企業活動の学習、経営者に関するビデオ等の視聴
- 作品展やコンテストの連携

※学年等で身に付けさせたい力を明確にして取り組むと効果的です。

各教科等の身に付けさせたい力を明確にした単元を**次年度、新たに設定し**、意図的・計画的に取り組む。

- 事業アイデアの検討、ビジネスプランの作成、コンテストの実施
 - 企業体験（模擬店舗の出店体験、模擬会社の設立）
 - 企業・地域団体等との共同プロジェクト（新商品の開発体験等）
- ※次年度の計画を見直す際に、検討すると効果的です。

小学校での実践例

学年・教科名 第5学年・総合的な学習の時間

単元名 プロジェクト〇〇～町を盛り上げよう～

学習の様子



アントレプレナーシップ教育を位置付けたねらい

コミュニケーション能力・情報収集能力

- 必要な情報を聞き出したり、販売で商品を説明したり、すすんで地域の人々とかかわる。
- 地域をPRする商品開発をするために、市場調査で、情報を集め、整理・分析した結果をもとにアイデアを出し合う。

学習内容

- ①店の社長から、製造・販売の工夫を聞く。
- ②市場調査の項目を決め、調査の練習をする。
- ③市場調査を行い、結果から商品を企画する。
- ④調査結果を分析して、商品企画に生かす。
- ⑤プレゼンの評価結果から1チームに決める。
- ⑥商品販売の準備をチームで行い販売する。

授業の留意点

- 地域の商店と事前に打ち合わせを行い、商品開発や販売の工夫について話をさせていただく依頼をする。
- 株券を発行し資金を募り、商品を販売した後は決算報告を行い、配当や利益の使い方を話し合わせる。
- 会社の解散式を開き、達成感や自分の成長を感じられるようにする。

学年・教科名 第6学年・総合的な学習の時間

単元名 働かってなんだろう

学習の様子



アントレプレナーシップ教育を位置付けたねらい

チャレンジ精神・情報収集・分析力

- 職業について調べたり、「起業」を体験したりすることを通して、自分や社会の将来について考え、働くことに関心をもつ。
- 収集した情報やアイデアをもとに、企画を友達や保護者、地域の方にアピールすることで、思いや願いを表現する。

学習内容

- ①地域の方から仕事についての話を聞く。
- ②仕事調べの視点を決める。
- ③仕事調べを行い、新聞にまとめ、交流する。
- ④会社体験をする。
- ⑤どんな会社を作りたいか考える。
- ⑥企画書を作り、プレゼン大会を開く。
- ⑦活動の振り返りをする。

授業の留意点

- 自分が就きたい職業について調べたり、新しい仕事を考えたりする。
- 自分たちが作りたい会社の企画書づくりをすることで、企画を具体化する楽しさを味わわせる。
- 企画の発表（プレゼン）は、保護者や地域の方に株券を買ってもらう形で評価してもらう。

小学校での実践例

学年・教科名

第5学年・総合的な学習の時間

単元名

〇〇フェスタを成功させよう

学習の様子



アントレプレナーシップ教育を位置付けたねらい

創造力・プレゼンテーション能力

〇店の内容を他者と協働しながら考え、新しい価値を創造する力を高める。
〇PR 集会でお店の内容を決められた時間で紹介することで、プレゼンテーション能力を培う。

学習内容

- ①学級で話し合い、店を決める。
- ②出店する内容を考える。
- ③適切な役割分担をする。
- ④会場の準備をする。
- ⑤前日に児童集会を開き、店のPRを30秒厳守で行う。
- ⑥各学級・学年で出店し、活動する。
- ⑦外部評価を受けて、活動の振り返りを行う。

授業の留意点

- 〇事前に、クラス単位で店の企画について情報収集を行い、出店場所について分析を行う。
 - 〇事後に、振り返りカードを記入する。外部評価を受けて、活動を通して身に付いた力や伸ばしたい力を確認する。
 - 〇外部評価者は、PTA 会長をはじめ、保護者の方に依頼した。
- ※外部評価は、次の4項目で行った。(判断力・チャレンジ精神等のアントレプレナーシップ教育の観点で評価することも可能です。)
- ・アクション(主体性、働きかけ力、実行力)・シンキング(店の独創性・計画力)
 - ・チームワーク(発信力・規律性)　　・プレゼンテーション(表現力)

実践者からの声

アントレプレナーシップ教育の視点を取り入れた展覧会

展覧会に向けて、6年生は、いすを製作し、展示しました。学習グループを会社組織とし、各会社のコンセプトに合ういすを作りました。展覧会では、各会社が方針を決め、一人ひとりが作成したいすを保護者へ売り込むためのプレゼンテーションを行います。保護者には、買いたくなりたいすを制作した会社に、シールを貼ってもらいます。

子どもたちは、「便利なイス」「笑って明るくなるいす」「鉄道ファンを増やすいす」「おいしいスイーツが食べたくなるいす」「気持ちが休まるいす」など工夫を凝らしたいすについて、熱心に発表をしていました。

ある保護者から、「グループのメンバーがチームとして作成したいすについてプレゼンをしていたので、いす作りへの思いがよく伝わった。全員が活発に自分のいすをPRしていた。ただ展示してあるのよりもとてもよかった。」と絶賛していただきました。

アントレプレナーシップ教育を推進するためには、私たち教員が意識を変えて、もう一度学習活動を見直すことが大切だと、改めて感じました。



中学校での実践例

学年・教科名

第2学年・理科

単元名

ものづくり体験と作品（成果）の発表

学習の様子



「東京都児童生徒発明くふう展」で、学校賞を受賞しました。

アントレプレナーシップ教育を位置付けたねらい

創造力・プレゼンテーション能力

- 既習事項を活用し、自分や身近な人たちが感じている不便さを解消し、より便利になる道具や物について考え、創造力を高める。
- 具体的な形にするために幅広い知識や技術を得ようとする探求心を向上させる。
- 作品について、その効果、有用性や作り上げるまでの苦労等を発表させることで、プレゼンテーション能力を高める。

学習内容

- ①日常生活の中で、人々が感じている不便さや、こんなものがあったら良いと思うものについて、個人やグループで考え、まとめる。
- ②個人またはグループで考えたものを実際の形にするために科学的に調査し、作品を作る。（夏季休業中の課題）
- ③各作品について発表し、全員で評価する。
優秀作品に選ばれた作品を「東京都児童生徒発明くふう展」に応募する。

授業での留意点

- 身の回りのものについて着目させ、全ては、人が考え、工夫した物であることを深く自覚させ、関心を高める。
- 優れた作品を校内で展示し、作成者の工夫や努力を共有する。

学年・教科名

第2学年 総合的な学習の時間

単元名

「職場体験」へ行こう

学習の様子



アントレプレナーシップ教育を位置付けたねらい

チャレンジ精神

- これからの時代を生きていくために、現在活躍している起業家から、志や意欲をもつこと、主体的・創造的・協働的に取り組む態度の大切さを学ぶことにより、働くことの意義を理解し、職場体験への意欲を高める。

学習内容

- ①職場体験の事前学習として、来校する起業家の会社や業務内容を理解する。
- ②講演後の質疑内容を検討する。
- ③学級委員会、係による講演会の準備をする。
- ④起業家の方を招聘して、講演を聞く。
- ⑤講演会終了後にアンケートを実施する。
- ⑥まとめと振り返りをする。

授業での留意点

- 職場体験実施前に行うことにより、働くことへの意義についての理解をさらに深める。

実践者からの声

起業家の講演を聞き、創造力を高める学習活動を位置付ける等、アントレプレナーシップ教育の視点を取り入れた学習に取り組みました。その結果、生徒の発想力が今まで以上に豊かになっているように感じます。

例えば、学級活動の時間や学校行事の取り組みの中で、これまでにないようなアイデアが提案されるようになりました。中には、「自分でメーカーを立ち上げて野球道具を作りたい。」「健康的な身体作りを目指したジムを開きたい。」と創造的な夢を描くようになった生徒もいます。

生徒の成長の様子を通して、担任として、さらに生徒一人ひとりに、何事にも果敢に挑戦しようとするチャレンジ精神、新しいものを生み出そうとする創造力を育ててあげたい、と強く思うようになりました。

10年後、20年後の日本を支えていくのは現在の小中学生です。今後もアントレプレナーシップ教育の視点を取り入れた授業改善を図ります。



団体・企業等による連携事例

自立活動（中学校 特別支援学級）

特別支援学級（2中学校）では、自立と社会参画を目指した実践的な取組として、販売学習を行いました。

区民祭りで、区内の社会奉仕団体の方と共に、「ミカン販売」を行いました。販売する側の立場になり、お客さんとのやり取りを楽しみながら、商品の並べ方、値段の付け方、お金の受け取り方やおつりの渡し方を身に付け、また、社会のルールも学びました。

家庭科「食べて元気に」小学校第5学年

パティシエをお招きし、「味覚」に関する学習を行いました。諸感覚を研ぎ澄ませ、味の基本を学んだり、料理を作ったりしました。プロの方からは、お客さんのことを考えて商品を作ることの大切さを教えていただきました。子どもたちは、分析力や情報収集力を培うよい機会となりました。また、「食育」と関連付けた学習展開ができました。

総合的な学習の時間「町をPRしよう」 小学校第5学年

地域にある製菓会社の方の御協力を得ながら、学習活動を行いました。グループで、客のニーズを探るために、商店街でインタビューをしたり、売れる煎餅を考えたりしました。保護者や関係者の資金提供の御協力を得て、実際に煎餅を商品化しました。保護者会、商店街や地域のお祭りで販売もしました。子どもたちは、生産から販売までの苦労と楽しさを学びながら、探究心や情報収集・分析力を高めました。

総合的な学習の時間「職場体験」 中学校第1学年

移動教室の際に、農業体験学習で、レタスの植え付けを体験しました。生徒は、農家の方と共に、土運び、水やり、苗植え等を行ったことで、商品として野菜を育てるための方法や苦労について学ぶことができました。

生徒は、「人生の先輩」である農家の方との触れ合いを通して、目標に向かって働くことや学ぶことの意義に気付き、働くことの厳しさを実感しました。

アントレプレナーシップ教育を提供する団体・事業者の紹介 (平成27年3月現在)

「生きる力」を育む起業家教育のススメ 小学校・中学校・高等学校における実践的な教育の導入例
(平成27年3月 初等中等教育段階における起業家教育の普及に関する検討会)より抜粋

一般社団法人新経済連盟	住所	東京都港区赤坂 1-14-5 アークヒルズエグゼクティブタワー8階 N811		
代表理事 三木谷 浩史	連絡先	050-5835-0770	URL	http://jane.or.jp/
対象となる児童・生徒の段階	全国の中学校・高等学校を中心とした出張授業の開催			
支援内容	新経済連盟「新経済人育成貢献プロジェクト」による出張授業の開催。次世代の起業家を育てるため、「実社会から“逆算”したキャリア教育」の実践に向けて、中学生・高校生を対象に教室まで出張して行う特別講座を実施。また、起業家教育を広めていくため学校での特別講座を実施している。区内中学校にも派遣実績がある。			
株式会社日本取引所グループ	住所	東京都中央区日本橋兜町 2-1		
取締役兼代表執行役グループCEO 齊藤 惇 取締役兼代表執行役グループCOO 米田 道生	連絡先	03-3666-1361	URL	http://www.jpx.co.jp/index.html
対象となる児童・生徒の段階	小学生（高学年）、中学生、高校生ならびにそれらの学校の教職員			
支援内容	起業家精神の涵養を図ることを主なねらいとし、株式会社を擬似的に設立・経営する体験等を通じ、自ら学び・自ら考える力などの「生きる力」を育むことを目的とする学習機会「起業体験プログラム」の実施を支援。また、キャリア教育や総合学習などを通じて、子どもたちへの教育を実践している教職員に、「起業教育」をテーマとする情報紙「OCOSO（オコソ）」を発行するなど、起業教育に関するさまざまな情報等を継続的に提供している。			
株式会社ウィル・シード	住所	東京都渋谷区恵比寿 1-3-1 朝日生命恵比寿ビル 9階		
代表取締役 長澤 誠	連絡先	03-6408-0801	URL	http://www.willseed.co.jp/
対象となる児童・生徒の段階	小学校5年生から高校3年生までが対象			
支援内容	プログラムは「事前学習→レディネス形成→ビジネスシミュレーションゲーム体験→振り返り→事後学習」で構成されています。地域で継続的に実施が行えるよう、以下の3モデルにてプログラムを提供している。 1. ウィル・シード講師が授業を実施する「講師派遣モデル」 2. 教員が授業を行えるよう支援を行う「教員養成モデル」 3. 地域で選出された人材が授業を担当できるよう支援を行う「地域人材養成モデル」			
特定非営利活動法人放課後NPOアフタースクール	住所	東京都港区新橋 6-18-3 中村ビル 2F		
代表理事 平岩 国泰	連絡先	03-6721-5043	URL	http://npoafterschool.org/
対象となる児童・生徒の段階	小学生 *内容により幼児～中高生までカバー			
支援内容	「だがしやチャレンジ」 子どもたちが本物の駄菓子屋を出店します。出店場所は商店街や地域のお祭りなど。仕入れ～店作り～販売まですべて子どもたちの手で行い、もちろん本物のお金で実施します。目標は「利益を出すこと」。うまい棒でおなじみの（株）やおきんのご協力により、8掛けで仕入れた商品で利益を出せるかはいかに値下げしないで売り切るかにかかっています。放課後NPOのHPより申込可能。 http://npoafterschool.org/dagashiya/			
いたばし子ども起業塾・中学生起業塾	住所	東京都板橋区舟渡 1丁目 13番 10号 アイ・タワー2F		
板橋区立企業活性化センター	連絡先	03-5914-3145	URL	https://www.itabashi-kigyuu.jp/
対象となる児童・生徒の段階	小学生4年生～6年生、中学校1年生～3年生			
支援内容	夏休みの1日を使って会社経営をバーチャルに体験できる。子どもたちが「自ら考え、自ら創り、自ら稼ぐ」という経験を通して、クリエイティブ力や提案力を磨くきっかけを提供する。さらに、ビジネスの仕組み、会社経営の仕組み、経済の仕組みを体験することにより、ビジネスや起業をより身近に感じるねらいもある。本プログラムは、株式会社セルフウイングのサポートによって運営されている。			